

令和8年度 かほく市立金津小学校 学校評価計画書

経営目標		取組内容	主担当	(昨年度末最終達成状況) 現 状	評価の観点	達成度判断基準		備考
1	学力の向上	★ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、授業改善を図り、主体的で協働的に学ぶ子の育成を図る。	学習指導 (関)	(A:90%以上) ・授業の始まりにゴールの姿を児童と共有し、学習方法や道具を選択し、自己決定する機会を増やすようにした。また、個に応じた指導のために、児童の見取りを大切にすることができた。	【努力指標】 個に応じた指導や支援を行うために、考えをもつ時間や場を設定して、学び合いにつなげることができる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。	教員自己評価
		イ 振り返りの充実を図り、自己への変容の気づき、学習の深まりへの自覚を図る。	学習指導 (関)	(B:校内アンケートでは80%以上) ・授業の終末場面において振り返りを行うことで、児童の成長等の変容に気づかせるようにした。8割以上の児童が振り返りを通して「できた」「がんばった」といった自己の姿に気づくことができた。	【成果指標】 振り返りを通して、児童は自己の変容に気づいている。	「振り返りを通して自分のできるようになったことやこれからがんばろうと思ったことに気づくことができた」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	児童アンケート
		ウ 1人1台端末の積極的な活用で効果的な学習に努める。	GIGA推進 (北)	(A:年間7回以上) ・今後も月1回程度の研修を行い、効果的な活用方法について共通理解していく。	【努力指標】 考えを交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A:年間7回以上 B:年間6回以上 C:年間5回以上 D:年間4回以下	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	GIGA校内研修会
				児童アンケートでは、A(90%以上) ・今後も楽しく活用できるように、全教員で活用の推進をしていく。	【満足度指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	楽しいと感じている児童が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	児童アンケート
		エ カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成に努める。	教務 (釜井)	(A:90%以上) ・単元の初めに4つの視点について付けたい力を児童と共有し、毎時間振り返るワークシートを使って、振り返りを充実させることができた。そのことによって、「まとめ・表現する力がついたか」という教員自己評価は100%であった。	【努力指標】 学校全体での方向性をしっかりと共通理解する場を学期ごとにもち、成果と課題について改善を行っていく。また、系統性を意識していく。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価
	生活目標の達成	ア 「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的に行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導 (関谷)	(A:90%以上) ・生活目標の取組に慣れ、児童が自ら企画・運営するような機会も増えてきた。児童が自分事として課題意識をもち、主体的に取り組めるように働き掛けていく。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよい行動ができるように取り組んでいる。	生活目標のふり返りにおいて、児童肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表
				(A:90%以上) ・規則正しい生活に対する児童の意識は概ね高いが、メディアとの関わり方については、利用時間や内容のコントロールに課題が見られる。学校は、メディアの安全な利用の仕方について学習する機会を設ける。	【成果指標】 学校で1人1台端末の利用のきまりを守り、学習に役立つ使い方ができている。	肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		児童アンケート

2	生徒指導の推進	イ	生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にす る心情を育成する。	生徒指導 (榎田)	(A:90%以上) ・今後も継続していき、より一人一人の頑張りを児童 にも保護者にも広めていけるようにしていく。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、よさを伝 えることに積極的に取り組んでい る。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、自主的・実践 的態度を育成するための手立 てについて、再検討、工夫を 講じる。	教員自己評価
				生徒指導 (榎田)	(B:80%以上) ・さらに安心して過ごせる学校を目指して、人の気持 ちを考える機会をさらに設けたり、児童に素敵な姿 を伝え、広めていく。	【成果指標】 児童は、自分のよさに気づいてい る。	「自分にはよいところがある」と回 答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		児童アンケート
		ウ★	いじめ・不登校・問題行動の早 期発見に努める。事案に対して は全職員での情報共有、迅速 なケース会議を開催し、組織的 に対応する。	生徒指導 (榎田)	(A:90%以上) ・未然防止にも注力し、保護者と学校とがさらに協力 できるように情報を発信していく。	【努力指標】 個別の支援シートを作成した児童 を中心に、児童理解と支援を行うと ともに、いじめや問題行動の未然 防止・早期発見に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、体制及び運営 について検討する。	教員自己評価
		ウ★	特別支援教育についての理解 を深め、だれもが安心して学べ る環境を整える。(SSRの活用)	生徒指導 (関谷)	(A:90%以上) ・少人数の利点を生かし、一人一人の実態を丁寧に 見取ることができているが、指導にあたる教師の専 門性については更なる向上が求められる。個別最 適な学びの実現に向けて、試行錯誤しながらチャレ ンジしていく。	【努力指標】 学習や生活に特別支援教育の視 点を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、 検討、改善を行う。	教員自己評価

3	情操豊かな心の育成	ア	道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	道徳教育推進教師（横山）	(A:90%以上) ・別業の内容を見なおし、重点目標について意識して指導できるようにしていく。 ・地域とも連携し、ゲストティーチャーを招く機会を設けていく。	【努力指標】 道徳の授業づくりを工夫する。 ア 中心発問の吟味 イ 言語活動の充実 ウ 価値の自覚化 エ 道徳揭示の蓄積	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。	教員自己評価
		イ	「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	教務（釜井）	(A:90%以上) ・年間を通して「金津の森活用計画」を推進することができた。それぞれの学年に応じた森の活用をすることができた。特に「金津の森フェスティバル」を通して、地域や保護者にも金津の森の良さを発信することができた。 ・自然体験や交流活動を活発に行うことができた。どのような方に協力していただいたかを年間計画に位置付けたので、継続して活用していく。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。 【努力指標】 講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、その要因を明らかにし、金津の森活用計画の内容について再検討する。 Cの場合には、体験活動等の取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価
		エ	幼小・小中の交流活動を通して、児童理解における情報交換を実施し、幼小・小中のスムーズな接続を推進する。	教務（釜井）	(A:90%以上) ・幼小連携では、計画的な交流活動を通して園児との円滑な接続を図ることができた。また、保護者参観の機会も増え、円滑な接続を推進することができた。 ・小中連携では、授業参観や合同の活動、情報交換を通して学びをつなげていくことができた。	【努力指標】 幼小の交流活動、小中の教職員の合同学習会や相互授業参観、情報交換会の開催に取り組む。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価
4	健康と体力の向上	ア・イ	「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」「のびのびタイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	特別活動 体力づくり（北）	(A:90%以上) ・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。 ・今後も、風っ子タイムで運動に親しむ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。	【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。 【満足度指標】 児童は、楽しく進んで運動に取り組んでいる	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 風っ子タイムに楽しく取り組んでいる児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。 Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価 児童アンケート 体力アップ1校1プラン実施状況
		ウ	健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。	保健安全（山本）	(A:90%以上) ・基本的な生活習慣の確立のために、集団指導や個別指導の充実を図る。 ・生活習慣の基盤である「早寝早起き朝ご飯・歯みがき」について関係機関(学校医・栄養教諭等)と連携した指導の充実を図る(保護者参観型形式など)。	【努力指標】 児童が主体的によりよい生活習慣づくりに取り組むために、家庭や関係機関(学校医や栄養教諭等)と連携した指導の充実を図っている。 【成果指標】 児童には、健康的で規則正しい生活習慣が定着している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 児童・保護者アンケート(前期・後期)が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価 児童保護者アンケート

5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	ア	各種たよりやホームページ等により、積極的・意図的に学校の情報を発信する。	教頭 (遠田) 情報 (北)	(A:90%以上)	【努力指標】 活動の目的やねらいを、保護者に分かる形で示している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価
				教頭 (遠田)	・学校からの情報発信の方法として、コドモンが定着し、情報が確実に保護者に伝わっている。 ・PTAが主催した行事等、保護者が参加した行事においては、フィードバックを発信し、活動の意図やねらいについて、理解と共感が生まれるようにする。	【満足度指標】 保護者が参加した行事について、事前の説明や、活動の振り返りが適切に行われている。	肯定的な評価をする保護者が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		保護者アンケート
6	多忙化改善と人材育成	ア★	効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直し、及び定時退校日、学校閉庁日の意識化を図り、時間外勤務時間80時間越えゼロ、年間360時間以下を目指す。	教頭 (遠田)	(A:90%以上) ・勤務時間管理を意識した働き方を推進している。業務改善の意識向上を図るとともに、教職に対するやりがいをもてる職場環境の構築を目指している。	【成果指標】 業務改善の取組が勤務時間の改善に表れている。	時間外勤務時間の目標(月45時間以内)を達成し、やりがいを感じている教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	勤務時間＝ 時間外勤務時間結果 やりがい＝ 教員自己評価
		イ	学級経営や学校運営への参画意識を高められるようPDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭 (遠田)	(A:90%以上) ・各担当による提案により、共通理解が図られている。改善に向けた目標の明確化や検証(点検)の実施により、取組の質の向上につなげていくことが求められる。	【努力指標】 担当業務において、目標を明確にした提案や検証(点検)を行うことができている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		教員自己評価